

第4次産業革命のうねりの中での 日本・東京の対応

18世紀に英国で始まった第一次産業革命(蒸気機関の発明による機械化産業が生まれる)、第二次産業革命は19世紀半ば頃の機械化技術が発展して色々なものが大量に生産された。結果、より安い商品が消費者に届けられた。そして第三次産業革命は現在のモバイルIT社会で1995年のwindows95の発売頃と歩調をあわせ(リチウムイオン電池が大きく貢献)。携帯電話、スマートフォン、ラップトップ、パソコンなどが躍動!

これから迎える大きな産業革命を第四次産業革命と称していますが、IoT、AIといった技術がさらに進歩して新しい社会が生まれて来ると思います。内閣府は「超スマート社会」、東京都は「society5.0」と言っています。

第四次産業革命はET革命が最適です。Eはエンバイロメント(環境) & エナジー(エネルギー)です。地球環境への貢献と個人費用負担の軽減の双方が満たされる商品・サービスが提供されると予測されます。そのためにはIoT, AIという概念が鍵を握ります。



Society5,0の実現には、IoT時代において、あらゆるモノ・人が繋がるための基幹インフラである5Gネットワークの構築が不可欠。

様々な事業を展開できるようにするための大胆な規制緩和を進めることが必要です

